

平成 30 年度宇都宮大学大学院教育学研究科専門職学位課程

入学試験

教育実践高度化専攻

小論文

次の 3 つの設問から、2 つを選択し論述しなさい。なお、解答用紙の口には、選択した問題が分かるように、問題番号を記述しなさい。

【問題 1：学校改革力の領域】

学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）では、これからの学校の教育課程は「社会に開かれた教育課程」であるべきだと示されています。このような教育課程のあり方が求められる背景や学校教育の現状について考察し、さらに教師として今後どのようなことが求められるかについて考えを述べなさい。

【問題 2：授業力の領域】

学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）では、「単元や題材などや時間のまとまりを見通しながら、児童（生徒）の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を行うこと」が示されました。「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、どのような手立てが必要だと考えますか。校種や教科等、単元を想定し、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【問題 3：個への対応力の領域】

落ち着きがなく、授業中に教室から外へ出て行ってしまいう児童生徒がいる場合、その子に対してどのような支援をすればよいと考えますか。また、このような行為に対して、周囲の児童生徒にはどのような説明をすればよいと考えますか。校種や学年、そのときの具体的な状況を想定して述べなさい。

第 2 次 入学試験

教育実践高度化専攻

小論文

次の 3 つの設問から、2 つを選択し論述しなさい。なお、解答用紙の□には、選択した問題が分かるように、問題番号を記述しなさい。

【問題 1：学校改革力の領域】

社会の急速な進展の中で、知識・技能の絶えざる刷新が必要であることから、教師は今まで以上に探究力を持ち、学び続ける存在であることが不可欠であると言われています。「学び続ける教師」であるために、教師が日頃から心がけておかなければならないことについて、具体的な取組例を挙げながら述べなさい。

【問題 2：授業力の領域】

学習指導要領（平成 29 年 3 月告示）では、「生きる力」を児童生徒に育むために、育成を目指す資質・能力を、

- ア. 「何を理解しているか、何ができるか」（生きて働く「知識・技能」の習得）
- イ. 「理解していること・できることをどう使うか」（「思考力・判断力・表現力等」の育成）
- ウ. 「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養）

の三つの柱に整理しています。

この中のアを育成するために、どのような手立てが必要だと考えますか。校種や教科等、単元を想定し、具体的な例を挙げながら述べなさい。

【問題 3：個への対応力の領域】

不登校児童生徒とは、「何らかの心理的、情緒的、身体的、あるいは社会的要因・背景により、児童生徒が登校しないあるいはしたくともできない状況にあるため年間 30 日以上欠席したもののうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義されています。児童生徒が不登校とならない、魅力ある学級・学校とすることが望まれます。魅力ある学級・学校とするために、あなたはどのような取組をしますか。校種や学年、地域の状況を想定して述べなさい。